

TOPICS

ICTの活用によるシームレスな移動の実現

障害のある人を含む全ての人が、屋内外を問わず、自分の現在位置や、目的地までの経路等の情報を容易に入手できるよう、GPSの電波が届かない地下街や公共の施設内におけるインフラ（屋内電子地図、測位環境）の整備や施設のバリアフリー情報を含む各種データのオープンデータ化等を推進している。2021年度に開催された東京2020大会会場周辺エリア等における歩道の段差や幅員等の情報をデータ化し、オープンデータとして公開し、オープンデータを利用した案内アプリを大会期間中に配信し、選手及び大会関係者へ提供することができた。引き続き各種アプリへのデータ提供へ向けた取組を進めている。また、屋内空間で地図整備や測位環境整備を行う際に留意するポイントをまとめた『屋内地図/屋内測位環境構築の手引き』（https://www.mlit.go.jp/tochi_fudousan_kensetsugyo/content/001402093.pdf）を策定する等、屋内空間におけるナビゲーションサービス等の創出・普及に向けた環境づくりを促進した。

○屋内空間における自分の現在位置を特定するために必要なインフラ（屋内電子地図、測位環境）の整備

〈屋内電子地図のイメージ〉



〈測位環境整備のイメージ〉



国土地理院の仕様に準拠し整備した東京駅・新宿駅周辺等の屋内電子地図を「G空間情報センター」にてオープンデータ化



屋内地図/屋内測位環境構築の手引き（事例紹介ページ）

○歩行者移動支援に資するバリアフリー情報等の各種情報データの整備・オープンデータ化の推進

〈オープンデータの活用によるサービス創出のイメージ〉



スマホアプリ等への活用例

「JapanWalkGuide」アプリ



「コソシルバリアフリーナビ」アプリ



〔ナビアプリなどを通じ、屋内外問わず、自分の現在位置、目的地までの経路等の情報が詳細に入手可能〕



個人の身体状況やニーズ、例えば、段差や急勾配、幅員の狭いレイト等を避けたバリアフリールートの案内やナビゲーションが可能